

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：37101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720389

研究課題名(和文) 古代マケドニアの葬制にみる伝統的文化構造とその変容に関する考古学的研究

研究課題名(英文) Archaeological Study on the Ancient Macedonian Funerary System : Its Structural Transformation between Traditional and Foreign Cultures

研究代表者

松尾 登史子 (MATSUO, Toshiko)

九州共立大学・経済学部・非常勤講師

研究者番号：00598998

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円、(間接経費) 540,000円

研究成果の概要(和文)：本研究を行うにあたり、マケドニア王国の形成・拡大過程における都市建設・植民活動の重要性が認識され、特に社会上層部の再編に異文化融合の様相が表れるとの知見を得た。これに従い、王国の主要3都市のネクロポリスにおける大規模建造墓の分析を遂行し、なかでも建造式室形墓の建築構造の型式分類からその系統を明らかにし、都市毎の特徴を捉えた。ここにおいて、ヴェルギナには全段階の型式が存在し、レフカディアには比較的新しい段階のみが存在し、都市の特徴を含めて解釈すれば後者に異文化融合の度合いの高さが認められた。更に、埋葬主体部正面部の各柱式墓群において文化的相違の示唆を獲得し得た。

研究成果の概要(英文)：This research demonstrates the significance of ancient Macedonian activities of city-constructions and planting colonies in the process of foundation and expansion of their kingdom. Especially it is stressed that we could make out some features of cultural assimilation on re-organizations of upper class of their society. Therefore the analysis was made into large built-tombs in Necropolis of Macedonian 3 main cities. In this analysis a genealogical chart was given by classification of constructive structures of chamber-tombs. We could simultaneously distinguish characteristics of chamber-tombs by each city. Nekropolis of Vergina has all types of chamber-tombs, on the other hand, that of Lefkadia has only relatively new types. Then taking city's characteristics into consideration, it has been recognized that there were frequent and intensive cultural assimilation in Lefkadia's tombs. Furthermore it has been made out that each type of their facade suggests different origin of culture.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：古典考古学 ギリシア 古代マケドニア ヘレニズム 葬制 建造墓 室形墓

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は以下の3段階の経緯から本研究に着手するに至った。

(1) 研究対象地の学術的活動状況について
かつての古代マケドニア王国領は現在のギリシア北部地方に属し、その考古学的研究は諸事情により南ギリシアと比して遅くに開始された。これは結果的に貴重な文化財を地中に保存しておくこととなり、近年数多くの集落・都市遺跡の総合的発掘調査が進展し有益な成果が報告されている。

(2) 本研究の着想を得た発端について

(1) に述べた状況の中、研究代表者はかつて当地にて古代マケドニア都市研究を行ない、都市計画の痕跡に元来遊牧民であった古代マケドニア人らが南ギリシアの思想や技術を取り込んで都市概念をつくり、王国増強を志向した努力が反映されていた、との結論を得た。これは、本代表者が本研究の目標を見出す発端となった。

(3) 本研究の方法について

その後、日本にて様々な研究を見聞するにあたり、考古学における葬制研究の有用性に着目するに至り、古代マケドニア研究にネクロポリスからの視点を採用することとした。都市の傍らに展開する「死の都市」において近年次々に明らかになっていく墓形態の様相に社会構造の解明への可能性を見出した。

更にこの試みを促したのは、当地にて遂行されている帰納法的方法につき問題提起の必要を感じたことであった。即ち、古代マケドニアの考古学研究は美術史・古典研究的側面が重視され、高度に文明化した歴史社会内諸事の研究を目的としてきた為、文献史料の稀少な当該社会を研究対象とするには十分に機能せず、一面的な結果しか得られていない。つまり、当該社会を研究対象とするのであれば、先史考古学の科学的仮説証明方法(演繹法)で補完される必要があると考え、日本考古学で行われている葬制研究の方法を応用することとした。

2. 研究の目的

1. における諸事情を踏まえ、研究の目的として、古代マケドニア葬制の体系的な研究に着手して、古代マケドニアの伝統文化構造を見出し、それが外来文化を受容して変容していく過程を解明し、更には、のちにヘレニズム文明と呼ばれる普遍文明の萌芽を抽出することを掲げた。これは、1. (3) で述べたように、当地の研究史では初の通時的視点からの演繹法による有機的な古代社会復元であり、また日本国内においては比較文化論研究に寄与すると考えられ、ギリシア日本双方の学界に貢献する目的もあった。

3. 研究の方法

2. に述べた目的を達成する為に、平成23年度に始まった3年間で調査・研究活動を行ったが、その方法につき、以下の2項目に

つき焦点を絞って具体的に述べる。

(1) 研究方法を遂行する上での具体的な工夫

主に以下の具体的な工夫を遂行した。

① 文献収集

現地(ギリシア共和国マケドニア地方)の希文学術雑誌・その他の欧文学術雑誌掲載研究論文資料などを収集。また、邦文献でも外国考古学の葬制研究に関する文献の収集。また方法論などについての知見を得る為、日本人研究者が関与している中国大陸や朝鮮半島、ロシアや中東などの葬制研究につき参考資料も収集。

② データベース作成

古代マケドニア葬制に関するデータベースを作成。古代マケドニアの中心支配領域は、中央、西、東マケドニアに区分されるが、中央マケドニアの王都ペラ、旧王都アイガイ(ヴェルギナ)、コパノス・レフカディアの各都市近郊墓群のデータベースを作成。葬制データベースには、墓埋葬主体部の建築構造や、埋葬形態、被葬者、副葬品の直接情報、調査史や参考文献、図版などの間接情報など、可能な情報全てを含む。

③ 古代マケドニア葬制に関する分類・編年

②において作成したデータベースにより墓形態の分類を遂行。主に墓埋葬主体部の型式分類と副葬品を対象とする。最終的には古代マケドニア王国を時間・空間的に網羅する時間軸の獲得を目標とした。

④ 研究の分析・考察、論文執筆、研究公開

獲得した資料および作成したデータベースを使用して分析・考察、論文執筆、研究公開の実施。

(2) 研究計画を遂行する上での研究体制

国内の研究者(建築史、西洋史(ギリシア史)、日本考古学、の諸分野)との意見交換、国外においてはギリシア国立テッサロニキ大学大学院哲学研究科の研究者(古典考古学、先史学、の諸分野)の協力を要請。また現地の情報収集につき同大学哲学部歴史・考古学図書館司書、アテネの考古学専門書店の協力を依頼。また現地の遺跡関連はペラ遺跡調査室技官や考古学局技官らの協力を要請。

4. 研究成果

2. で述べたように、本研究の目的は、古代マケドニア葬制研究により伝統的文化構造を見出し、これが外来文化を受容・融合し、変容する過程を解明し、後に顕在化する普遍文明的要素の萌芽を抽出することであった。

平成23~24年度では、王都ペラの墓所分析にてマケドニアの都市建設、特に植民活動の重要性を認識する視点を得、旧王都ヴェルギナの墓所分析に着手した。王国の形成・拡大過程で制圧した周辺在地民を取り込み上層部をも再編していく様相が埋葬形態にあらわれるとみて分析を進め、埋葬形態の採用・選択、特に土葬・火葬の相違が民族的出自に依存するという可能性を見出した。

最終年度は、墓類型の体系化を継続しつつ、ヴェルギナ墓所分析を特に箱形墓を含めた建造墓の埋葬方法に着目して遂行した。室形墓（所謂「マケドニア墓」）が王族級の墓であれば同規模を持つ箱形墓も同等階層あるいは少なくとも社会上層に属するとみなされ、両墓の相互関係の検討により上層社会の一端を解明し得るとの見通しの下、これらの土葬・火葬の選択理由を検討するために、埋葬方法と時期、埋葬主体部規模との相関をみた。その結果、両墓の盛衰につき、箱形墓は王国存続期に一貫して造営された一方、室形墓は前4世紀第3四半期に突如として出現しそれ以降造営されたこと（図1）、全時期（I-III期：図3-a, b, cを参照）を通じて室形墓は箱形墓よりも規模が大きく、階層的には上であること（図3-a, b, c）、が明らかになった。更に、埋葬形態の変遷から、古代マケドニア人は基本的に土葬の風習を持つがフィリポスII世期以降、特に東征を画期として帰葬などの実用的な理由により火葬を選択する頻度が増加した可能性があること（図2, 3-a, b, c他）、が明らかになった。この結果から、埋葬形態と出自の相関は低く、むしろ建造墓両類型の建築構造自体の比較分析から外来・自生の技術を見極めることの重要性が浮き彫りとなった。つまり、マケドニア社会上層部を被葬者とする建造墓の埋葬主体部構造自体に、社会上層部の再編状況と相関した異文化融合の様相が表れているのではないかと結論に達した。

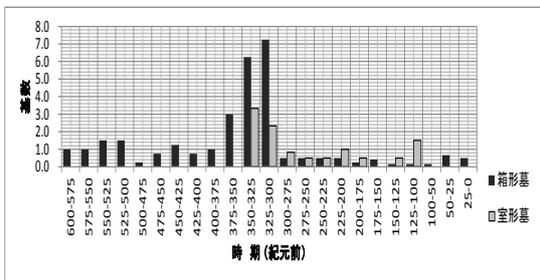


図1 ヴェルギナ建造墓造営数の時期変遷

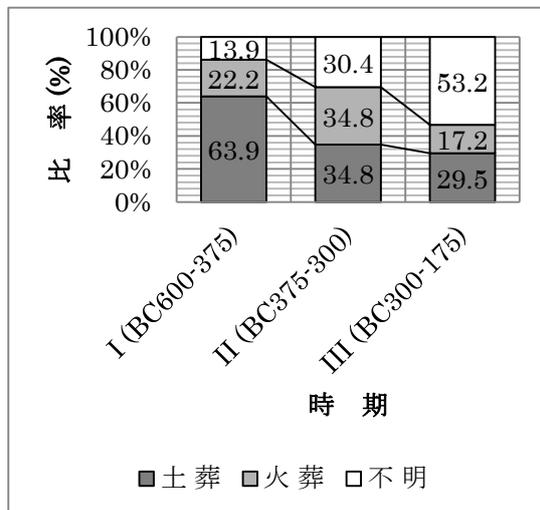


図2 ヴェルギナ建造墓における埋葬方法の時期別推移

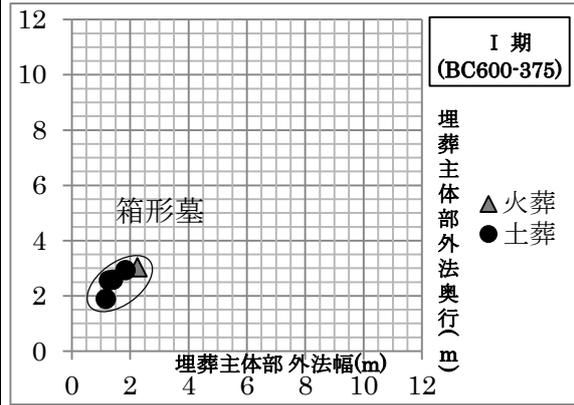


図3-a ヴェルギナ建造墓埋葬主体部の規模と埋葬方法の相関 (I期：紀元前600-375年)

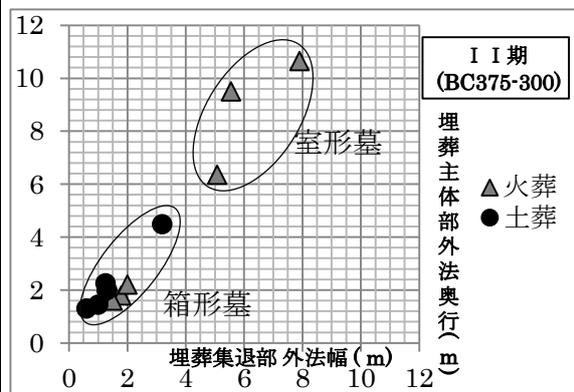


図3-b ヴェルギナ建造墓埋葬主体部の規模と埋葬方法の相関 (II期：紀元前375-300年)

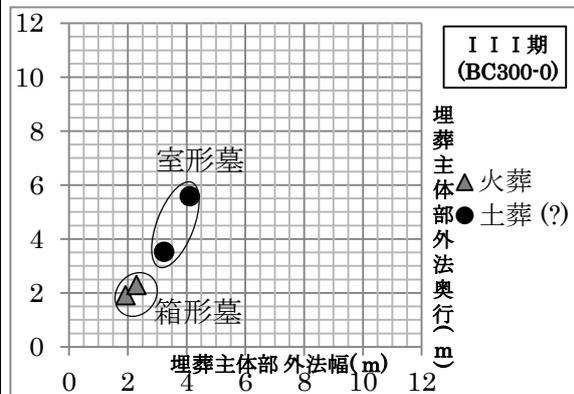


図3-c ヴェルギナ建造墓埋葬主体部の規模と埋葬方法の相関 (III期：紀元前300-0年)

これに従い、王国の主要3都市遺跡（ペラ、ヴェルギナ、コパノス・レフカディア）のネクロポリスにおける大規模建造墓の分析を遂行し、なかでも最盛期の王族級の墓が含まれる建造式室形墓の建築構造の型式分類からその系統を明らかにして、都市毎の特徴を把握することとした。ここにおいて、まずヴェルギナの建造式室形墓12基の埋葬主体部の型式分類を行なった。墓プランと外法・内法、屋根のつくりから、埋葬主体部が建築主体部（蒲鉾形屋根付）・増築部（平屋根あるいは蒲鉾形屋根付）・正面部（平屋根あるい

は切妻形屋根付)で構成されていたことに注目し(図4-a)、その組み合わせ系統図を作成した(図4-b)。これによれば、単室と複室は単に室数の増減によるものだけでなく、構造上の相違によるものが存在することが分かった。つまり単室の蒲鉾形屋根建築主体部を基本とすると、複室にはその建築主体部内を壁で仕切って前室を設けたものが存在する一方、前室としての増築部を付したものが存在する。そしてそれらの前面に正面部を付したものが存在する。ヴェルギナにはこれら全段階が存在し、レフカディア5基には比較的新しい段階、及びそれらの派生した形が存在し、都市の特徴を含めて解釈すれば後者に異文化融合の度合いの高さが認められた。更に、埋葬主体部正面部の各柱式墓群において文化的相違の示唆を獲得した。特に、イオニア柱式正面形態を持つグループは埋葬主体部の形状に一定の特徴が見られ、更なる分析が求められる。一方、王都ペラの6基には基本系統の比較的新しい形のみがみられており、紀元前4世紀以降の王都としての機能を反映したものと考えられる。これらの各都市に分布する建造式室形墓の建築構造の詳細については現在も分析中であり、今後は中央マケドニアのみならず西・東マケドニア全域を対象として遂行する。



図3-a 建造式室形墓の埋葬主体部構成部分

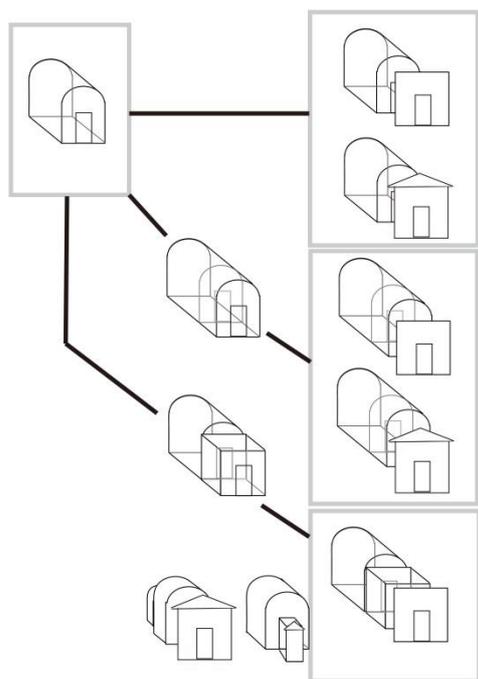


図3-b 建造式室形墓の系統図

本分析は古代マケドニア上層に属する被葬者の社会・文化的位置づけ、同王国形成・拡大過程における異文化融合の様相を明らかにするものとして、確実にその成果の一端を示した。特にヴェルギナと比してレフカディアの建造式室形墓に新しく多彩な形が見られることは、古典期に既に一定の貴族的特色を持っていた地方都市ミエザが、ヘレニズム期、特にアンティゴノス朝以降に繁栄し、東征以降の異文化流入・融合の拠点となった可能性も示唆する。一方、本分析方法は当該分野を研究するいずれの研究者も用いていないものであり、長期的視野における大きな成果が期待される。この3年間にてその土台が構築されたことは重要な成果であると言わねばならない。また本分析を行なうことで、ヘレニズムの異文化融合様相の解明のみならず、マケドニア葬制研究における建造式箱形墓から同室形墓への変遷過程も解明し得るという期待も出てきた。これは現地の研究者の重大な関心のひとつであり、多大に期待されるテーマであり、学界へ寄与するところは大きい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

- ① 松尾登史子・安永信二「ヴェルギナにおける墳墓の埋葬形態に関する考察」『九州産業大学国際文化学部紀要』、査読無、第55号、53-70頁(2013年9月)
- ② 松尾登史子「中央マケドニアの古代都市に関する考古学調査の現状」『西アジア考古学』、査読有、第14号、67-78頁(2013年3月)
- ③ 松尾登史子・安永信二「古代マケドニア王都ペラにおける都市計画とその変遷」『九州産業大学国際文化学部紀要』、査読無、第52号、53-84頁(2012年9月)

〔学会発表〕(計 1件)

- ① 松尾登史子「古代マケドニア王都ペラの墓所(Necropolis in the Ancient Macedonian Pella)」第19回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会(2012年7月7日 於奈良県立橿原考古学研究所)

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松尾 登史子 (MATSUO, Toshiko)
九州共立大学・経済学部・その他

研究者番号：00598998

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：